

戦争法案

強行採決抗議、廃案を

憲法研究者有志が声明



会見する憲法研究者ら＝28日、参議院議員会館

小沢隆一（東京慈恵大）学教授、永山茂樹（東海大）教授など憲法研究者有志は28日、参議院議員会館内で記者会見し、「安保関連法案の強行採決に抗議するとともに、そのすみやかな廃案を求める」と題した声明を発表しました。賛同者は1週間で204人を超えています。声明は、同有志らによる6月3日の声明で指摘していた問題▽法案策定までの手続きが

立憲主義、国民主権、議会制民主主義に反する▽内容が憲法9条その他の憲法規範に反すること、法案審議を通して「ますます明らかになった」と指摘。さらに、議会制民主主義に必要な審議時間をとっていないだけでなく、野党の質問に真摯（しんし）な答弁を行おうとしなかったため、「さらに多くの重要な論点が事実上付かずのまま放置され

ている」と批判しました。

福島県立医科大学の藤野美都子教授は、「歴史をみれば武力行使が人々の命や生活を守ってきたことはい」と指摘。「今の平和憲法があるからこそ私たちの平和的生存権が守られてきたことを、もっと積極的に評価していくことが必要

です。軍事力を強化するより、日本が武力紛争に巻き込まれない積極的な平和政策を行うことを憲法は命じています」とのべました。

藤井正希（群馬大）准教授は「武力で平和が保たれるなら、アメリカはすでに平和な国になっているはずだが、実際は、戦争と武力行使連続の歴史で、世界

で一番危険な国になっている」と強調。「米国と一体化するほど脅威は増える。今こそ平和主義ブランドを正面に掲げ平和外交に尽くしていくべきだ」と話しました。

会見には三輪隆（埼玉大）名誉教授、横田力（都留文科大学）教授も同席しました。